

岩洞湖遺跡群

—市道一の渡岩洞湖線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

岩洞湖E遺跡 第2次
岩洞湖G遺跡 第2次

2018.3

盛岡市・盛岡市教育委員会

岩洞湖遺跡群

—市道一の渡岩洞湖線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

岩洞湖E遺跡 第2次
岩洞湖G遺跡 第2次

2018.3

盛岡市・盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市藪川字亀橋地内に所在する岩洞湖E・G遺跡において、市道改良工事に伴い平成28年11月7日～11月30日（岩洞湖G）および平成29年6月27日～8月5日（岩洞湖E）にかけて実施した発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、盛岡市と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、遺跡の学び館が野外調査および出土資料整理・報告書編集を行った。また、本調査に係る費用は、事業主体である建設部道路建設課より支出された。
3. 本書の執筆編集は、室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘、花井正香、今松佑太、及川栞里の協力を得て、佐々木亮二、鈴木俊輝、神原雄一郎が担当した。
4. 遺構平面位置は世界測地系を用い、平面直角座標系10系を使用している。
5. 高さは標高値をそのまま使用している。
6. 土層図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。土層注記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛している。なお、層相の観察にあたっては、『新版標準土色帖』（1994小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。
7. 遺構記号は次のとおりである。

遺 構	記 号
土 坑	R D
溝 跡	R G

8. 附章相ノ山遺跡採集資料は、武田良夫氏と北進考古学資料室の高橋昭治氏共著の原稿の提供を受けて、掲載したものである。ここに記して感謝申し上げます。
9. 附章において図化している石器については、主要なものを選定し、神原雄一郎・佐々木亮二が実測を行った。写真撮影は今松佑太が行った。
10. 石器の表現について
 - a 細石刃の縮小率は1/1とした。
 - b 石核の縮小率は2/3とした。そのほかの器種については1/2とした。
 - c 石器の展開順序は、基本的に左側に表面（背面）、中央に右側面、右側に裏面（腹面・主要剥離面）を配列し必要に応じて側縁・縦断面・横断面を付け加えた。
 - d 石器の配列は、高橋氏、武田氏が作成した採集遺物一覧表の順に沿って配列した。

11. 調査体制－平成28・29年度－

- [調査主体] 盛岡市教育委員会
教育長 千葉仁一
教育部長 豊岡勝敏
教育次長 中野玲子（～28年度）
大倉慎澄（29年度～）
- [調査総括] 歴史文化課 遺跡の学び館
課長兼館長 杉本 浩
館長補佐 北田牧子（～28年度）
多田秀明（29年度～）
- [調査主体] 文化財副主幹 室野秀文
文化財副主幹 菊地幸裕
文化財主査 津嶋知弘
文化財主査 神原雄一郎（※整理）
文化財主査 花井正香
文化財主査 佐々木亮二（※調査・整理）
文化財主事 鈴木俊輝（※調査・整理）
文化財調査員 今松佑太（※調査）
文化財調査員 及川菜里
- [管理・学芸] 主任 川村 忠（29年度～）
主事 佐藤美沙（～28年度）
学芸調査員 樋下理沙
坂本志野
文化財調査員 日野杉潤子
- [助 言] 文化庁，岩手県教育委員会
- [協 力] 発掘調査，資料整理，報告書編集にあたり，盛岡市建設部道路建設課，地権者，地元関係者の方々，県内外文化財関係者の方々より多大なる協力を得た。記して感謝申し上げます。また，今回，貴重な原稿を提供して下さった武田良夫氏と高橋昭治氏，両名に改めて厚く御礼申し上げます。

12. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

目 次

例 言

目 次

挿図目次

写真図版目次

I 遺跡の環境	1
II 岩洞湖 E 遺跡	6
III 岩洞湖 G 遺跡	10
附章 相ノ山遺跡出土資料	13

挿 図 目 次

第1図 岩洞湖遺跡群位置図	1
第2図 岩洞湖 E 遺跡全体図	3
第3図 岩洞湖 G 遺跡全体図	5
第4図 岩洞湖 E 遺跡第2次調査区全体図	6
第5図 R G 001側溝跡	7
第6図 旧野田街道と一里塚位置図	9
第7図 岩洞湖 G 遺跡第2次調査区全体図	10
第8図 R D 001土坑	11
第9図 相ノ山遺跡採集石器 (1)	19
第10図 相ノ山遺跡採集石器 (2)	20
第11図 相ノ山遺跡採集石器 (3)	21

写 真 図 版 目 次

第1図版 岩洞湖遠景・岩洞湖近景
第2図版 岩洞湖 E 遺跡第2次調査区全景
第3図版 岩洞湖 E 遺跡第2次調査 RG001側溝跡
第4図版 岩洞湖 G 遺跡第2次調査区全景
第5図版 岩洞湖 G 遺跡第2次調査区全景・岩洞湖 G 遺跡第2次調査 RD001土坑

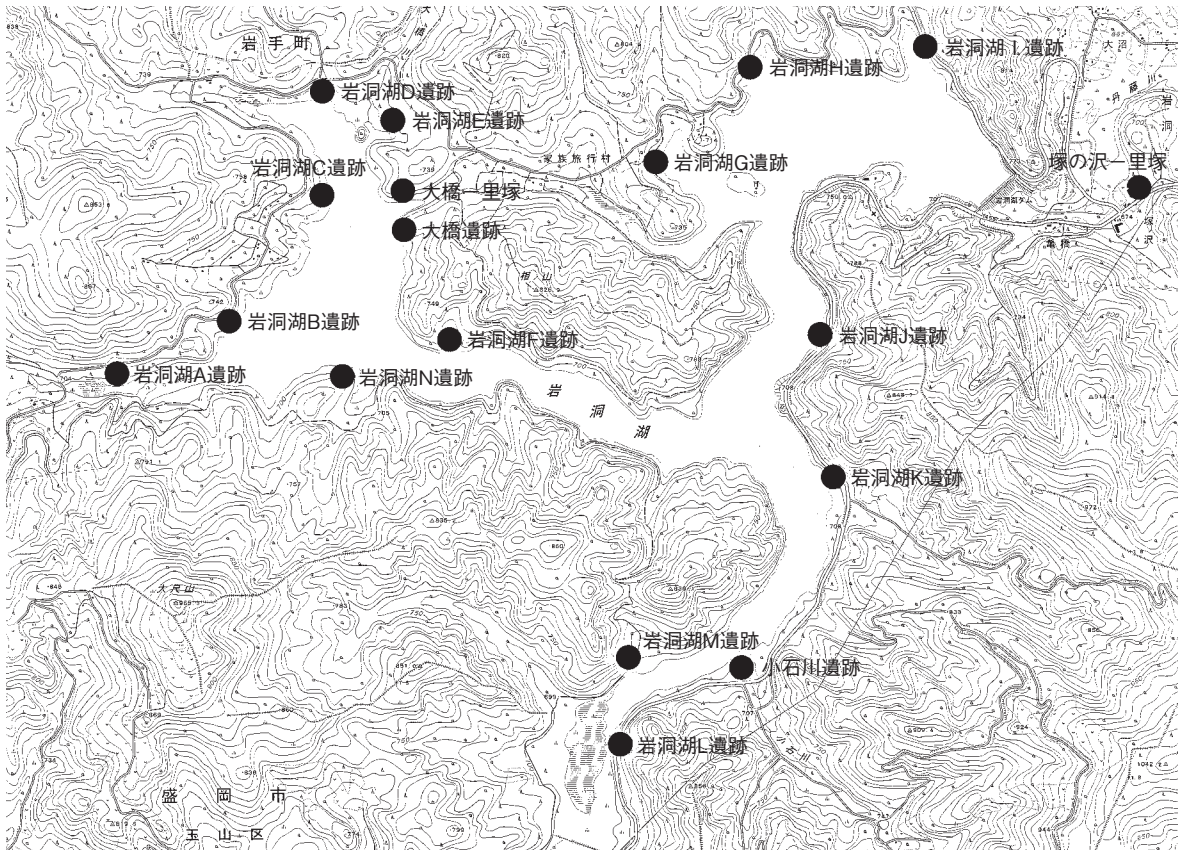
I 遺跡の環境

1. 地理的環境

遺跡の位置 「岩洞湖遺跡群」は、盛岡市街地より北東約20km、藪川地内の岩洞湖周辺に所在する（第1図）。岩洞湖E遺跡の規模は東西約2km, 南北約0.9kmと推定され、標高は690～710m前後である（第2図）。岩洞湖G遺跡の規模は東西約0.4km, 南北約0.6kmと推定され、標高は690～740m前後である（第3図）。いずれも現況は山林である。

地形・地質 盛岡市は東に北上山地, 西に奥羽山脈を擁し, 北西に岩手山 (2,038m), 北東には姫神山 (1,124m) を望む。中央に位置する北上平野には, 東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は, 構成する地質やその形成年代が異なるため, 東西の地形の様相は大きく異なる。また, 岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡周辺の地質・地形に大きく影響を及ぼしている。

旧玉山区の面積の大部分を占める北上山地の地質は, その構造史より, 北部北上帯, 南部北上帯とその間に分布する根田茂帯の三つに大きく分けられる。かつては北上山地の地質を南北に区分する境界断層帯は「早池峰構造帯」と呼ばれていたが, 近年の研究成果により, 地帯区分の整理が進み, 現在は南部北上帯の最下部を構成する複合岩類として区分されている。いずれの地帯も先新第三系から成る。その中で形成年代が一番古く確認されているのは, 南部北上帯であり, 最も下部に当たる早池峰山付近の複合岩類の起源は, 古生代中ごろのオルドビス紀に求められている。盛岡市の南東部に広がる根田茂帯は, 北部北上帯と南部北上帯の間に位置し, 近年まで年代不明であったが研究成果の蓄



第1図 岩洞湖遺跡群位置図(1:50,000)

積により、古生代後半の前期石炭紀の付加体によって占められていることが判明している。

旧玉山区の北上山地は、北部北上帯に属し、中生代中ごろのジュラ紀付加体によって占められている。根田茂帯と北部北上帯の境界は、四十四田ダム西岸の小野松山付近より南東に伸びる断層によって区分されている。岩洞湖は北部北上帯に属し、周辺の地質はチャートと粘板岩の互層となっている。西側の姫神山に近い部分は、花崗岩体による接触変成を受け、ホルンフェルスが形成されている。この花崗岩体は、前述した三地帯には属さない中生代の前期白亜紀に古生代の岩体を貫き固まった貫入岩の一部で、花崗岩体全体は北上山地の表層の4分の1の面積を占める。

2. 歴史的環境

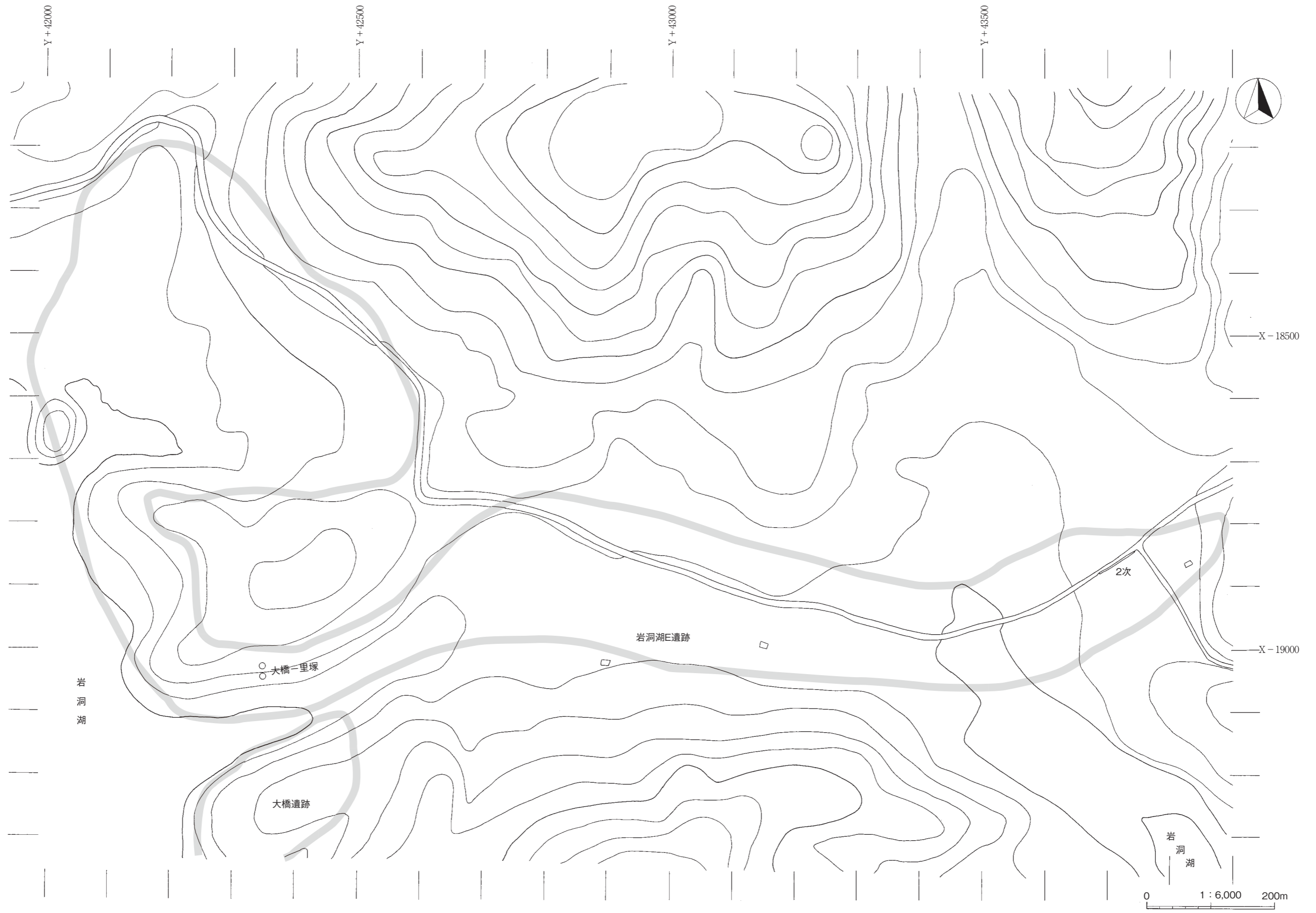
周辺の遺跡 岩洞湖は盛岡市藪川地内に所在する周囲約33kmの人口の湖で、滝沢地域の灌漑用水の確保を目的とし、昭和35年に完成した。岩洞湖周辺には小石川遺跡や大橋遺跡、岩洞湖A～N遺跡など、約16箇所の遺跡が確認されており、旧石器時代から現代まで人々が生活していたことがわかっている。

旧石器 岩洞湖南岸に位置する小石川遺跡（第1図）は、昭和51年（1976）に考古学者の武田良夫氏によって発見され、その後、昭和55年（1980）に当時の玉山村教育委員会が主体となり発掘調査が行われた。結果、珪岩製の尖頭器や頁岩及び黒曜石製の石核や剥片が多数出土し、当時ここで石器の製作が行われたことがわかった。出土した遺物は、出土層位から旧石器時代終末期（約13,000年前）の遺跡であることが確認された。これらの石材は周辺の北上山系のものだけでなく、奥羽山脈に産出する石材も含まれており、広範囲の地域間交流がうかがえる。また、岩洞湖北岸、相ノ山の麓に位置する大橋遺跡（第1図）では、岩手町の研究者である高橋昭治氏らが昭和56年（1981）頃に行った分布調査で、ナイフ形石器や県内でも出土事例の少ない細石刃が確認されており、これらは出土層位から約13,000年前のものと考えられる。

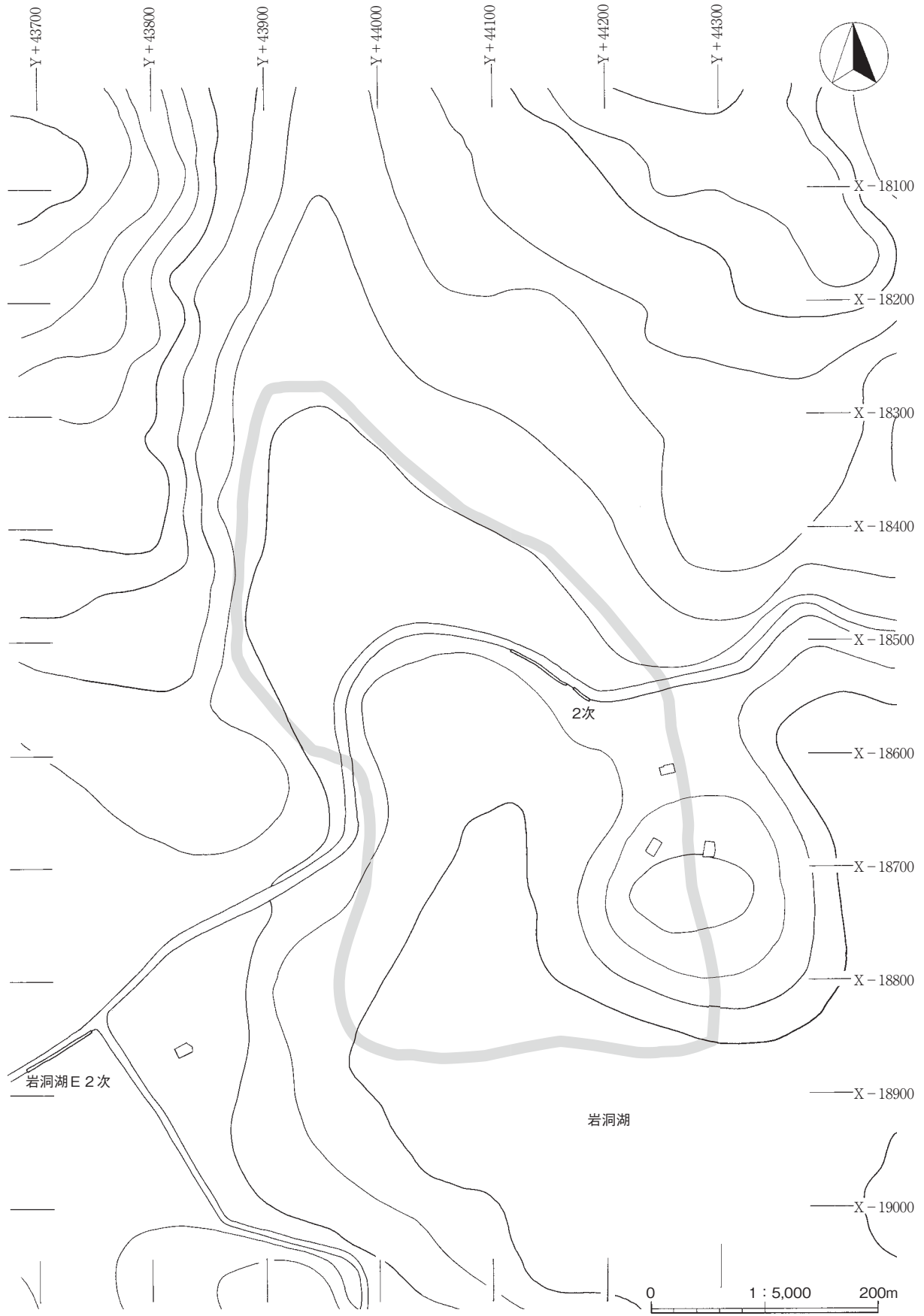
縄文～古代 岩洞湖岸では、水位の変動によって地山層が露出している箇所が多く見られ、岩洞湖E遺跡（第1図）などでは、複数の縄文時代の陥し穴状土坑が確認されており、当時狩猟場であったことがうかがえる。

岩洞湖H遺跡（第1図）では、湖畔の緩斜面上で古代の竪穴建物跡が多数確認されており、これらは埋土の状況から平安時代のものと推定される。

近世 近世になると、沿岸から塩や海産物などを盛岡に運ぶ重要な輸送路として、野田街道が整備された。野田街道は、盛岡城下から岩洞湖周辺を経由して野田へと通じている。岩洞湖E遺跡内には岩手県の史跡である大橋一里塚（第1図）が存在し、街道を挟んで築かれた2基の塚が現在も残されている。また、渇水期になると、水の引いた湖畔に野田街道の痕跡を確認することが出来る。



第2図 岩洞湖E遺跡全体図



第3図 岩洞湖G遺跡全体図

II 岩洞湖E遺跡

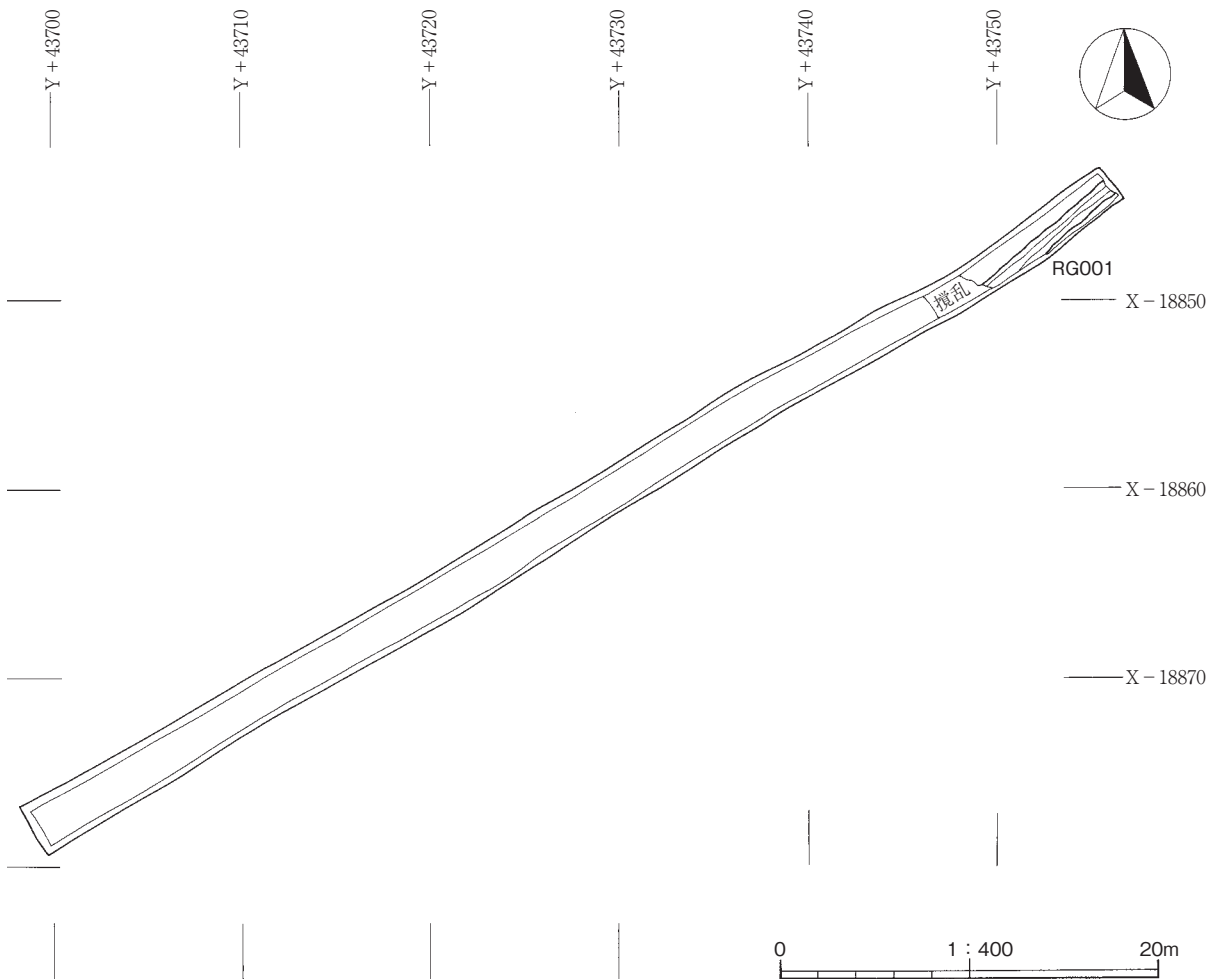
1. 調査経過

調査の経緯 平成27年度に盛岡市建設部道路建設課より市道一の渡岩洞湖線の道路改良工事の事前協議があり、路線の一部が岩洞湖E遺跡に該当することから、協議を受けて平成27年10月28、29日にトレンチによる試掘調査（第1次調査）を行った。その結果、縄文時代の土坑や中・近世の溝跡が確認され、工事着手前の緊急発掘調査が必要となった。本調査は、工事主体者である盛岡市長と協定書を締結し、予算の執行委任を受けて盛岡市教育委員会が行った。調査期間は平成29年6月27日、7月18日～20日、8月2日の5日間、調査面積は108.2㎡である。

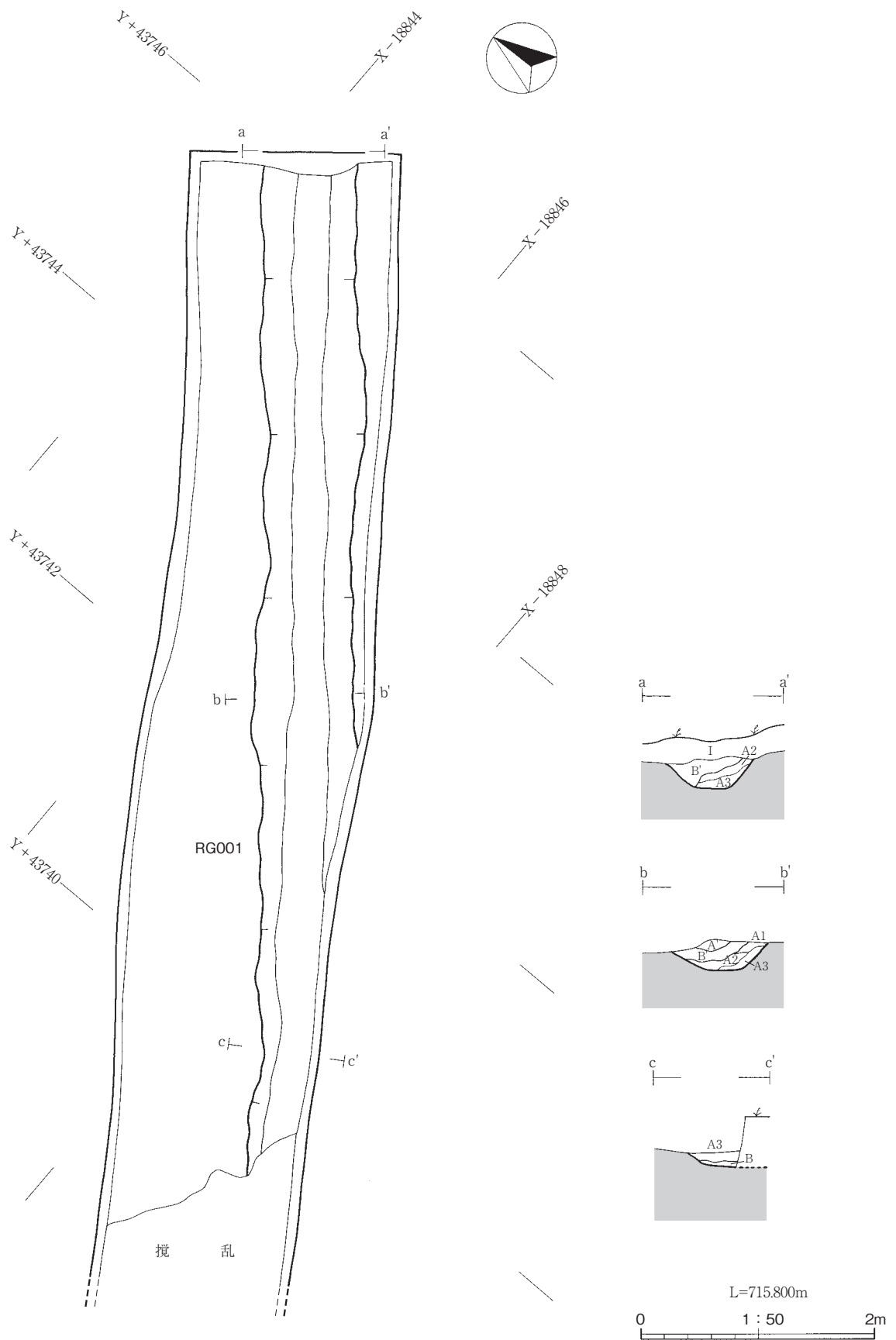
2. 遺構の検出状況

第2次調査区は遺跡内の最東端に位置し、北東から南西にかけての緩やかな斜面となっており、標高値は713～715m前後である。遺構は黄褐色土層上面で検出した。

検出遺構 確認された遺構は、江戸時代の野田街道に伴う側溝跡1条である。また、図示していないが明治～現在に至る現道に伴う側溝跡も確認している。



第4図 岩洞湖E遺跡第2次調査区全体図



第5図 RG001 側溝跡

3. 江戸時代の遺構

RG001側溝跡（第5図）

位置	調査区北東端	平面形	南西～北東方向にほぼ直線状にのびる		
規模	総延長8.52m以上，上端幅-0.69～0.89m，下端幅-0.21～0.39m				
重複関係	なし	掘込面	削平	検出面	黄褐色土層上面
埋土	A'層-ややグライ化した褐色土を主体とし，小塊～中塊状の黒褐色土を微量に含む。径0.5～2cmほどの礫を含み，硬くやや締りがある。 B'層-黒褐色土を主体とし，小塊～中塊状の黒色土を少量，小粒～小塊状の褐色土を微量に含み，硬くやや締りがある。 A層-暗褐色土を主体とし，粉～中粒状の黒褐色土を多量，小粒～中粒状の褐色土を微量に含み，硬く締りが強い。3層に細分され，A1層は黒褐色土の割合，A2層は褐色土の割合がやや多い。 B層-黒色土を主体とし，小粒～中粒状のにぶい黄褐色土を微量に含む。また，小粒状のカーボンを微量に含み，やや硬く締りが強い。				
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.06～0.28mで，外傾して立ち上がる				
底の状態	底面はほぼ平坦である				
出土遺物	なし	時期	近世		

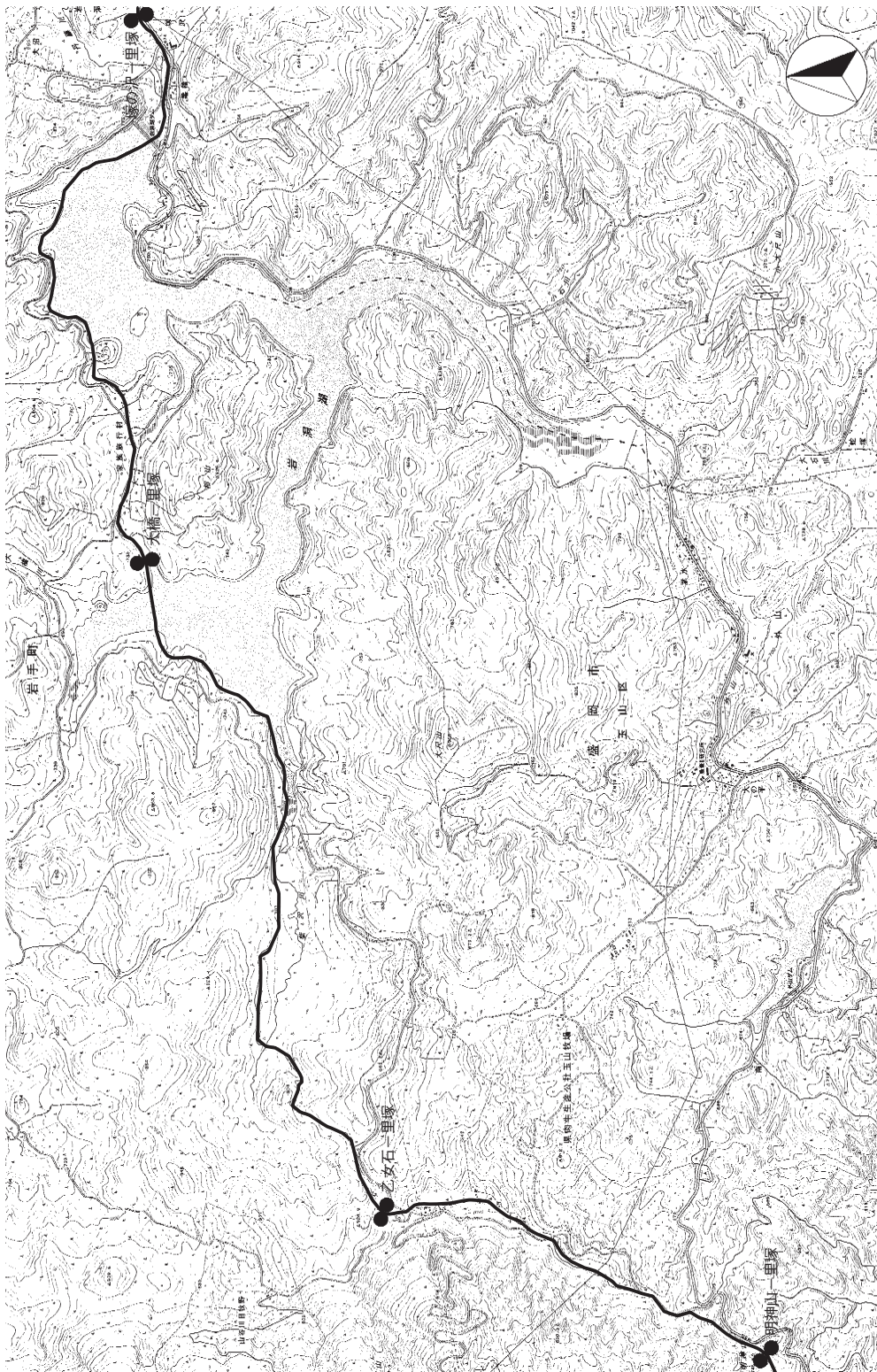
4. まとめ

本調査で検出された遺構は，側溝跡1条（RG001）である。隣接する第1次調査では近世（江戸時代）の野田街道に伴う側溝跡が確認されていたため，本調査でもその延長部分の確認が予測されていた。

野田街道は近世の盛岡藩領内で最も製塩が盛んであった野田特産の塩や海産物，鉄などを盛岡に運んだ重要な輸送路だった。野田街道は，江戸幕府直轄の五街道（東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中）の一つである奥州道中を本街道とした脇街道として整備され，現在の盛岡市紺屋町にあたる鍛冶町一里塚を基点に，盛岡と野田を結んでいる。この鍛冶町一里塚を起点とする領内の脇街道は，秋田街道・鹿角街道・野田街道・宮古街道・遠野街道である。当時の街道は側溝と土盛りによって作られており，42町を一里として街道沿いに築かれた一里塚とともに現在も確認することができる。岩洞湖E遺跡内には大橋一里塚（第6図）が所在し，街道を挟んで築かれた2基の塚が現在でも残されており，昭和51年に岩手県の史跡に指定されている。

本調査区周辺においても，近世の野田街道に伴う土盛り等を確認することが出来るが，家族旅行村入り口周辺では施設整備や現道部分の工事の際に大幅に地形が削平されたとみられ，街道の痕跡は確認できなかった。今回確認されたRG001側溝跡は，この近世の野田街道に伴う側溝跡とみられ，検出状況や埋土の状態から，整備改修を繰り返して近代（明治～昭和期：A'層・B'層）まで使用されていたようである。また，溝の南側に土盛り状の地形が残存していることから，今回確認されたのは東西に走る街道の南側の側溝と考えられ，現道部分の下に街道の北側の側溝があるものと推測される。

本調査では野田街道に伴う側溝の一部が確認されたが，現道部分及び家族旅行村入り口部分については確認することが出来なかったため，今後の調査に期待したい。



第6図 岩洞湖周辺の野田街道と一里塚(1:60,000)

Ⅲ 岩洞湖 G 遺跡

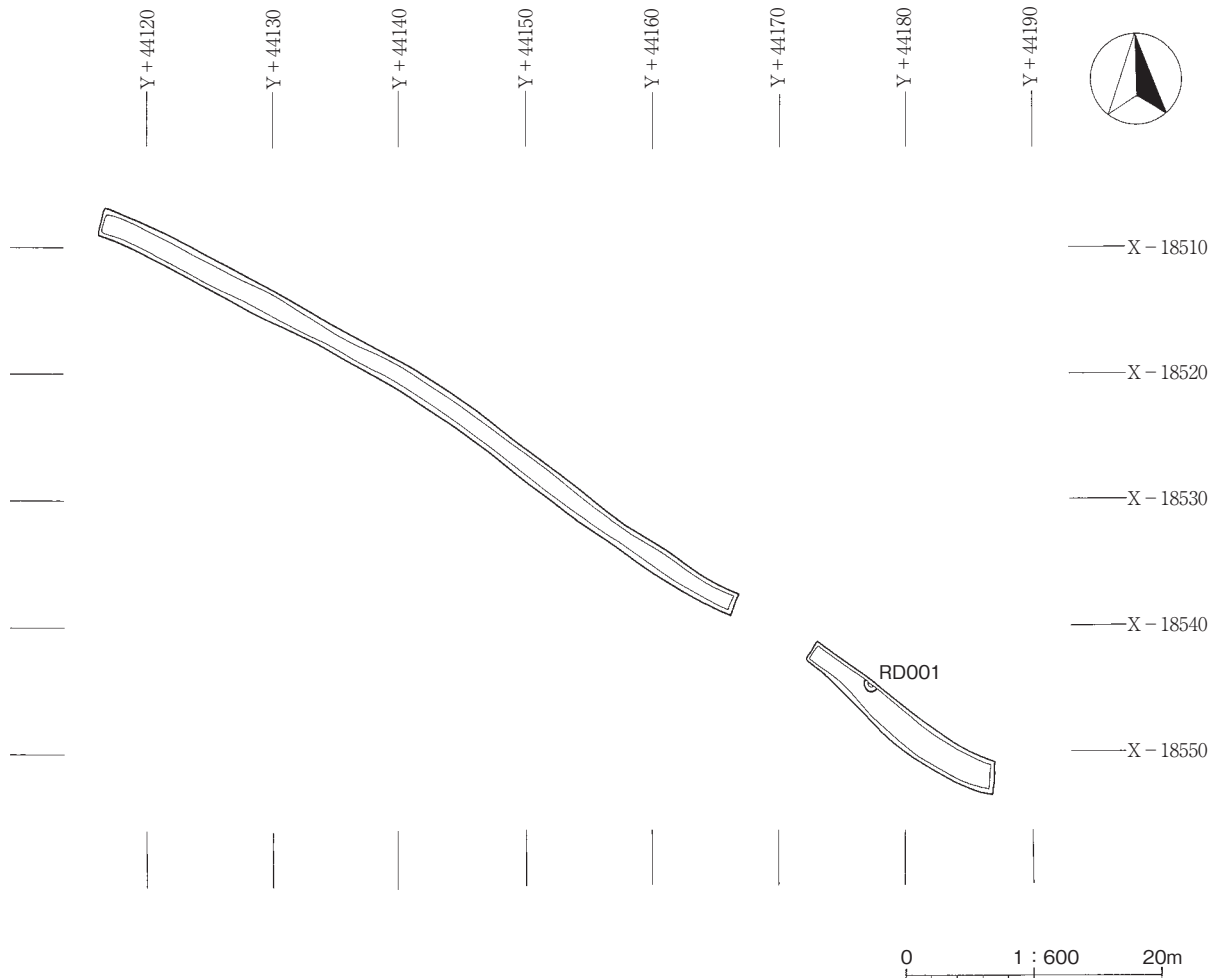
1. 調査経過

調査の経緯 平成26年度に盛岡市建設部道路建設課より市道一の渡岩洞湖線の道路改良工事の事前協議があり、路線の一部が岩洞湖 G 遺跡に該当することから、協議を受けて平成26年11月18、19日にトレンチによる試掘調査（第1次調査）を行った。その結果、工事予定範囲に近接する箇所から縄文時代の竪穴建物跡や土坑、土器が確認されたため、工事着手前の緊急発掘調査が必要となった。本調査は、工事主体者である盛岡市長と協定書を締結し、予算の執行委任を受けて盛岡市教育委員会が行った。調査期間は平成28年11月7日～11月30日。調査面積は84㎡である。

2. 遺構の検出状況

第2次調査区は遺跡内の北東に位置し、南東から北西にかけての緩やかな斜面となっており、標高値は704～705m前後である。遺構は暗褐色土層上面で検出した。

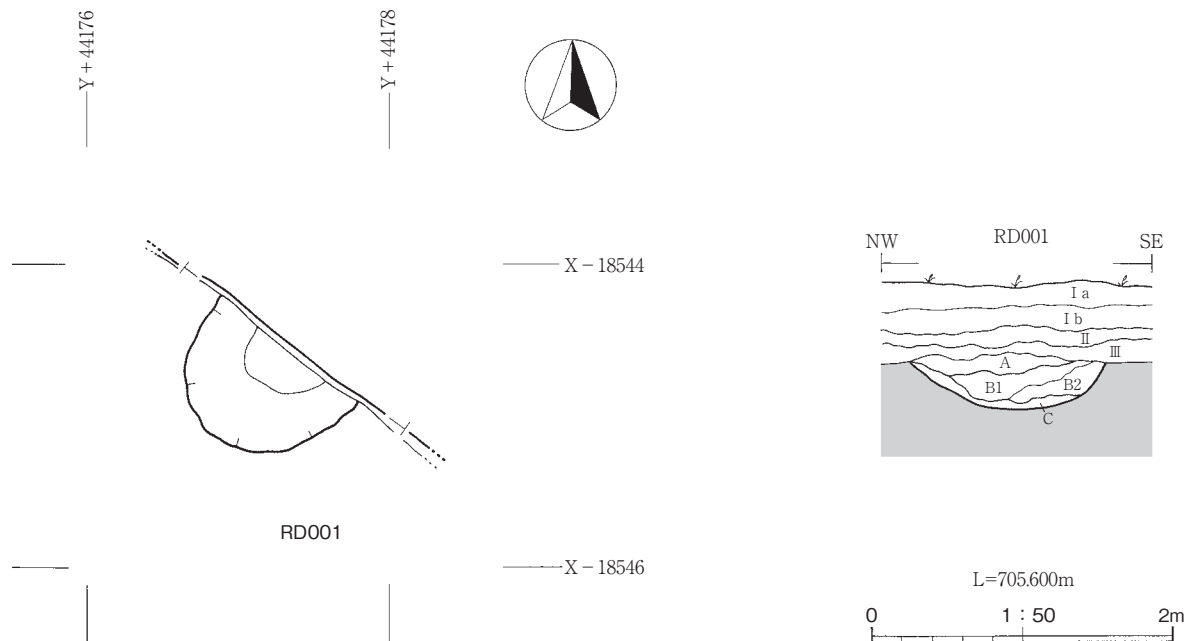
検出遺構 確認された遺構は、縄文時代の土坑1基である



第7図 岩洞湖 G 遺跡第2次調査区全体図

RD001土坑 (第8図)

位 置	調査区西
平 面 形	円形
規 模	上端1.14m・下端0.56m
重複関係	なし
掘 込 面	Ⅲ層下部
検 出 面	Ⅳ層
埋 土	黒色土を主体とし、炭化物を微量に含むA層，褐色土主体とし，粒状の黒色土を少量含むB層，黄褐色土を主体とし，少量のスコリア粒を含むC層に大別される。
壁の状態	外傾して立ち上がる。深さは0.38mをはかる。
遺 物	なし



第8図 RD001土坑

引用・参考文献

- 細井計 1981 『小本街道－岩手県「歴史の道」調査報告－』岩手県教育委員会
- 吉田義昭 1982 『久慈・野田街道－岩手県「歴史の道」調査報告－』岩手県教育委員会
- 菊地幸裕・室野秀文 2006 『玉山の遺跡』盛岡市遺跡の学び館
- 神原雄一郎 2016 『塩の道 野田道－藪川の古道を歩く－』盛岡市遺跡の学び館
- 神原雄一郎 2017 『藪川の遺跡－岩洞湖周辺の遺跡と野田街道－』盛岡市遺跡の学び館

附章 相ノ山遺跡採集資料

相ノ山遺跡の石器

高橋昭治
武田良夫

遺跡

ここで遺跡名を『相ノ山遺跡』と呼ぶのは、遺跡発見者である高橋昭治により『岩洞湖G遺跡』とされ、前報告者熊谷常正により『大橋遺跡』と呼ばれた遺跡と同一の遺跡のことである。このように呼び名にこだわるのは武田の持つ思いによるものである。大橋とされたのは、相ノ山の西対岸にある旧小本街道に係わる二基の一里塚の名に由来するものであろうが、同地に至る岩洞湖面からの上り口に、洗い出されたロームの面に黒々と記された旧街道跡から推測すれば南西に横たわっていた沢状地形は、西に位置する姫神山に向かう最大規模の沢であり、ここから注ぐ流れはこの地における比較的大きな流れとなって注いでいたものと思われる。未確認ではあるがここには流れを渡る最も大きな橋があったものに因む名称ではないのか。その橋も他に見られる立派な工作物とは異なり、いわゆる『柴橋』のようなものであったかもしれない。相ノ山遺跡はここは湖面に隔てられた相ノ山の南西斜面下部にあり約30年前高橋昭治により発見された。遺物を見つけた武田は細石刃の数の多さに眼をみはり、石核が未発見なので、これの探索に意を注ぎ全体像の追求をすることを提案した。それが高橋昭治の労と慧眼に報いる最良の方策であると思われたからであった。

その後高橋昭治の所蔵する遺物は他に寄贈され観察の機会は失われた。遺跡の地は湖面汀線に沿って洗い出された礫が全面を覆っていた。その礫をかきわけ遺物を捜すのであるが三十年間に約30点ほどの遺物が採集出来た、だから量、数ともに微々たるものと言える。しかし、新しい資料はそれまでに確認されていなかったものを含み、改めて紹介する価値のあるものであると判断された。

地層

遺跡地は湖に面して1m程の小崖となっていて、下層にチャートの礫層が認められる。しかし、地層に手を下し削り出し確認することはなかった。僅かに汀線に添ってローム層が露出し残るのが見られ、部分的な地層観察が可能であった。傾斜角10度ほどの地層は上部から小石川遺跡で『クリームパミス』と呼んだ白色の軽石が含まれ、その下に5cm程のやや締まったローム層がありこの層から細石刃を産出するのが小数例見られた。

この下の層は締めりはややゆるやかな無遺物のロームが続き下部に向かいチャートの礫が増加し数cmほどして礫層に移る。だからクリームパミスの層を鍵層とするなら細石刃は小石川遺跡の尖頭器の層の下部にあるとすべきかもしれない。しかしクリームパミスの地層は薄く張り付くように部分的に存在し、斜面全体に拡がっているのではなかったから、ここでは断定を避け今後の観察に期したい。

遺物

細石刃

泥岩質の細石刃は細く長いものがほとんどであり、中にはマッチの軸木程の太さのものがあった。加工の方法は同一の細石核から作られた済一性があり、背部の稜も1又は2本のものがあり折損したものの多さは、意図的な加工より細石刃作出の際折れるものの多さが伺われるのであった。

細石核

主たる石核は、湧別技法を示す船底形の2点であり、1はチャートにより、他の1は泥岩質石材を素材としている。ともに上部に甲板状の成形がなされ、舳先右端から数条にわたり細石刃剥離がなされている。チャートの

細石刃は未検出であるが、泥岩質の石核は多数発見されている細石刃と同系統の素材と見られる。また断面形がD字形をなし、先端に搔器加工があり上部に直角に彫器を思わせる剥離を施した厚手の剥片は、上部を横断するような調整から『峠下技法』との関連も伺われるものがある。その他石核の残核かとみられる柱状の小剥片があった。

彫器

チャートを素材とした彫器は、先端より下部にむかう剥離が大きく蝶番状に湾入して縦型に加工され、頁岩製のもの2点は先端に細かい剥離加工を加えその部分から斜めに小さく彫器加工を加えている。頁岩製の一点は小型の剥片を同様に細部加工の部分から斜めに彫器加工を加えていること、表面に左右に丁寧な押圧剥離を加えていることから、荒屋型彫器と判断されるものであった。

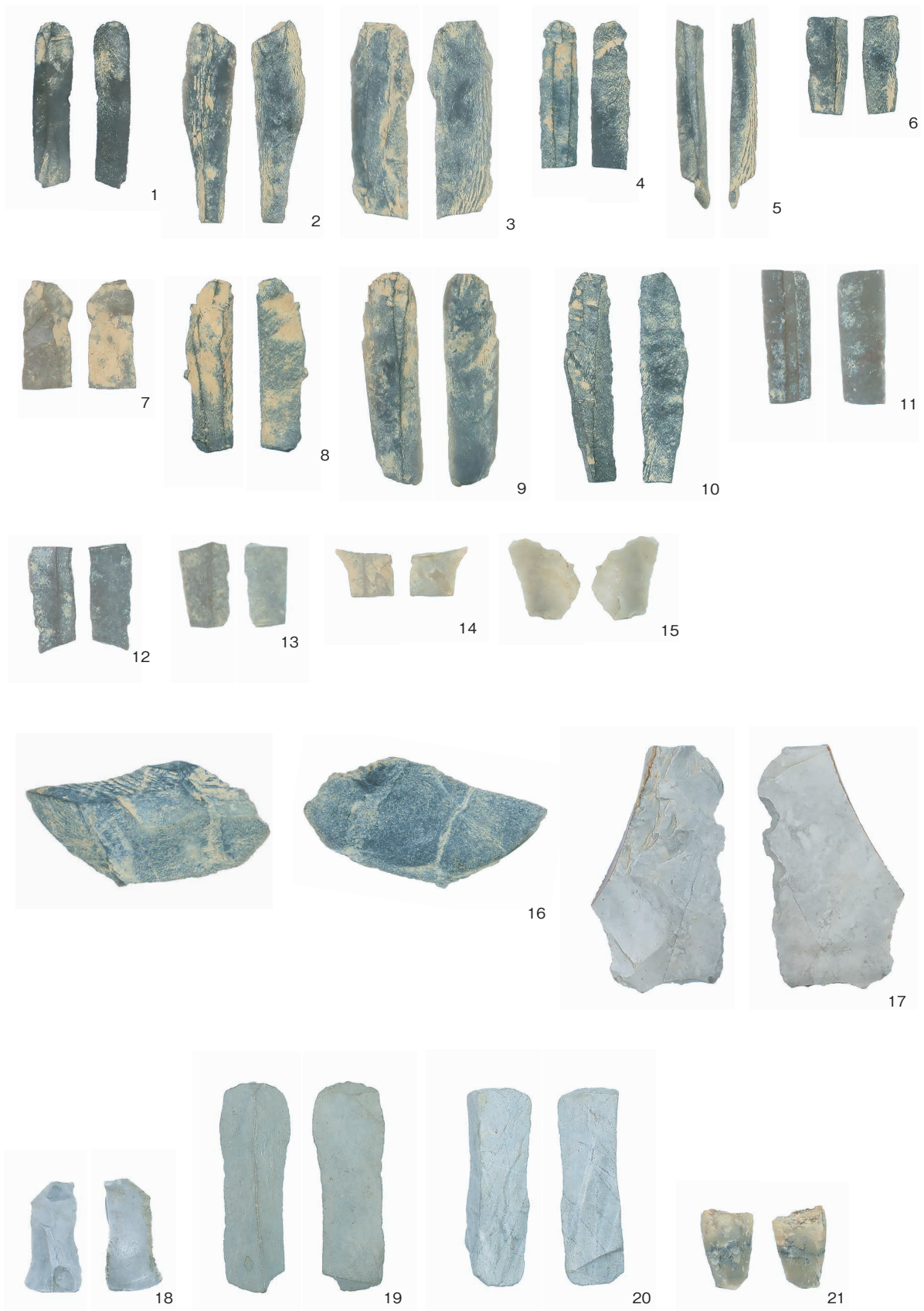
石材の移動

小石川遺跡に見られた緑色をおびたチャートは、遺跡のそここの沢などに散布するのが見られる。しかしそれらは材質が劣っていて出土遺物の素材には及びもつかない。良質のチャートは近傍の珪岩採石所にも産出が見られるところから、知られていない露頭が存在することが考えられる。細石刃を作る泥質の素材は、久慈市山形町沼袋遺跡の谷底にみられる頁岩に共通するものがあるのは注目される。近似素材には近傍に産出地のあることから、ここからのものが採集使用されていることが考えられる。

岩手県内に細石刃の遺跡は大台野遺跡に角柱状の石核により作られたものがあり和賀町の遺跡出土のもの北上市付近のいくつかの遺跡などいくつかの類例はあげられるものにホロカ型石核に関連するもの他に円錐形のものがあることが知られている。しかし、湧別技法に直接関連あるとみられるものの存在は、管見にのぼるものが知られていなかった。予測されることは、現在の知見から推測するなら微弱なものであっても北上山地を南下するルートがあり、相の山遺跡の資料はこれを語るものとするのが可能と考えられる。しかし湧別技法の細分に関しては知るところは多くないのでこれ以上語ることはできない。説明に実測図をかかげるべきものであるが、老境の今の視力で細部を描くことは不可能なので略図と写真により述べることにしたい。

番号	器種	材質	形状	長	幅	厚	
1	細石刃	M	完形	2.1	0.5	0.15	バルブあり
2	〃	〃	〃	2.5	0.65	0.15	表左部フィッシャー多 バルブあり
3	〃	〃	〃	2.4	0.7	0.15	裏バルブ フィッシャーあり
4	〃	〃	〃	1.5	0.32	0.1	稜2条 バルブあり
5	〃	〃	頭部欠	2.32	0.33	0.15	稜2条
6	〃	〃	頭先欠	1.22	0.5	0.2	中央部分
7	〃	〃	頭部欠	1.2	0.55	0.15	
8	〃	〃	尾部欠	1.72	0.43	0.1	稜2条
9	〃	〃	〃	2.6	0.6	0.15	頂部調整痕あり クリームパミス直下
10	〃	〃	折損	2.53	0.55	0.15	右辺に微細加工
	(-B)			0.65	0.3	0.15	
11	〃	頁岩	頂部欠	1.4	0.5	0.15	稜2条
12	〃	〃	〃	1.1	0.45	0.1	中央部分
13	〃	〃	尾部欠	0.7	0.4	0.15	〃
14	〃	〃	中央部	0.5	0.6	0.1	小破片
15	チップ	珪岩	小剥片	0.9	0.75	0.1	
16	剥片	M	横長剥片	4.1	2.0	0.3	バルブあり 頂部表面フィッシャー
17	〃	頁岩	縦長	1.7	0.7	0.2	半折
18	小石刃	〃	半折	3.6	1.2	0.5	尾部欠 2012.9.26
19	〃	〃	〃	3.1	1.0	0.5	尾部欠 表面に摩滅痕
20	剥片	〃		4.1	2.0	0.4	側縁に小加工痕
21	石核	珪岩	三角柱状	1.25	0.8	0.45	縦位の剥離痕5条 残核か
22	〃	〃	船底状	8.7	5.7	2.7	甲板状上面 右より剥離
							右面全面左方より剥離
							左面 未加工原面
							頭部 上部から細石刃剥離
23	〃	M	〃	7.9	3.6	1.5	上部甲板 尾部より一回の剥離で作成
							頭部 縦2条の細石刃剥離
24	彫器	珪岩	石刃状	4.3	2.1	0.6	裏面に加工なし
							彫刻面は縦1条に剥離
25	〃	頁岩	石刃状	7.0	3.7	0.9	打面入念に細部加工
							ここを打点として彫刻面を剥離
26	〃	〃	縦長剥片	2.2	2.1	0.4	頂部右側に細部加工 ここを打点として彫器加工
27	搔器	〃	剥片を加工	5.2	4.2	1.3	表面の大部分は自然面 下部左辺に搔加工
28	〃	〃	周辺加工	7.2	4.4	1.1	
29	搔器	頁岩	剥片加工	10.1	7.8	1.2	先端部裏面より10回以上加工
30	小石刃	〃	石刃状	4.3	2.1	0.6	頂部に細加工
31	搔器	〃	大型	4.8	4.1	1.4	上面打面調整
32	剥片	珪岩	基部欠	3.9	2.7	0.7	下部曲部に使用痕
33	〃	頁岩	茶褐色	2.8	1.9	0.3	裏面にリングあり
34	〃	〃	黒灰色	1.6	2.3	0.6	バルブ痕大きい
35	石片	珪岩	船底形	4.5	2.2	2.1	加工痕はやや不明瞭
36	〃	〃	〃	3.9	3.2	1.1	〃
37	〃	〃	〃	3.3	2.7	1.8	〃
38	石鏃	頁岩	無柄平基	3.6	1.3	0.3	先端欠 両面とも左右から剥離
39	尖頭器	〃	先端部	2.2	1.4	0.7	石槍の破片か
40	土器片	口縁部	繊維含	3.3	4.5	0.8	裏面横なで 平縁
41	〃	体部片	繊維含	3.0	4.9	0.6	斜縄文 裏平滑に調整
42	〃	沈線文		3.7	7.0	0.65	繊維含まず 物見台式か

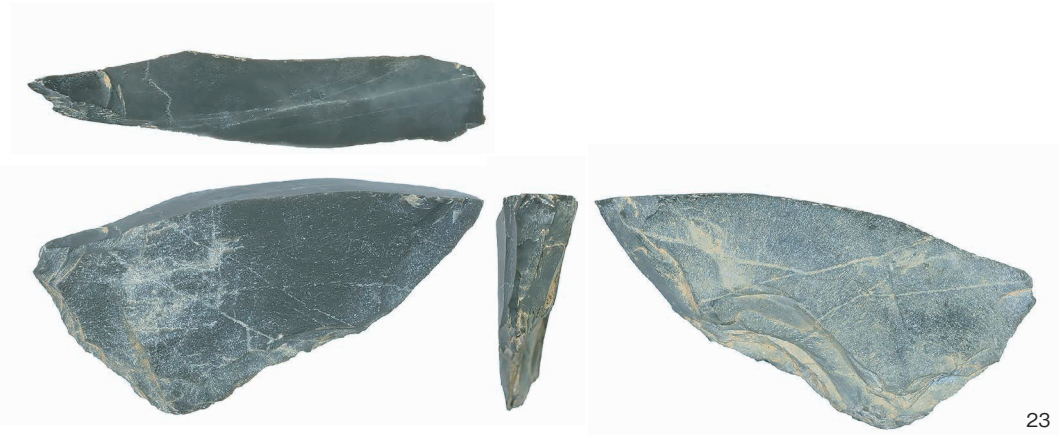
相ノ山遺跡 採集遺物 一覧表



相ノ山遺跡採集石器(1)



22



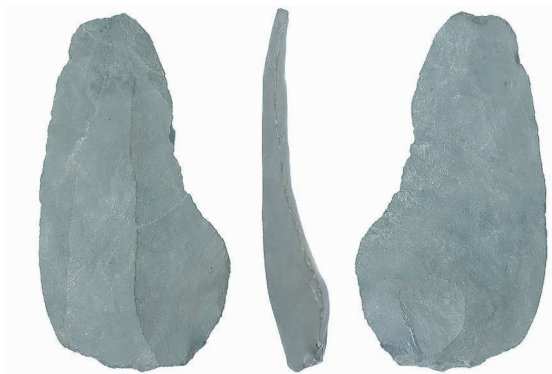
23



24



26

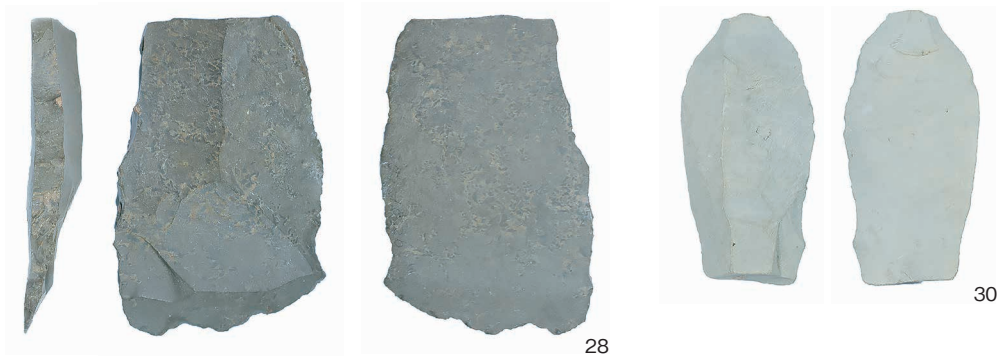


25

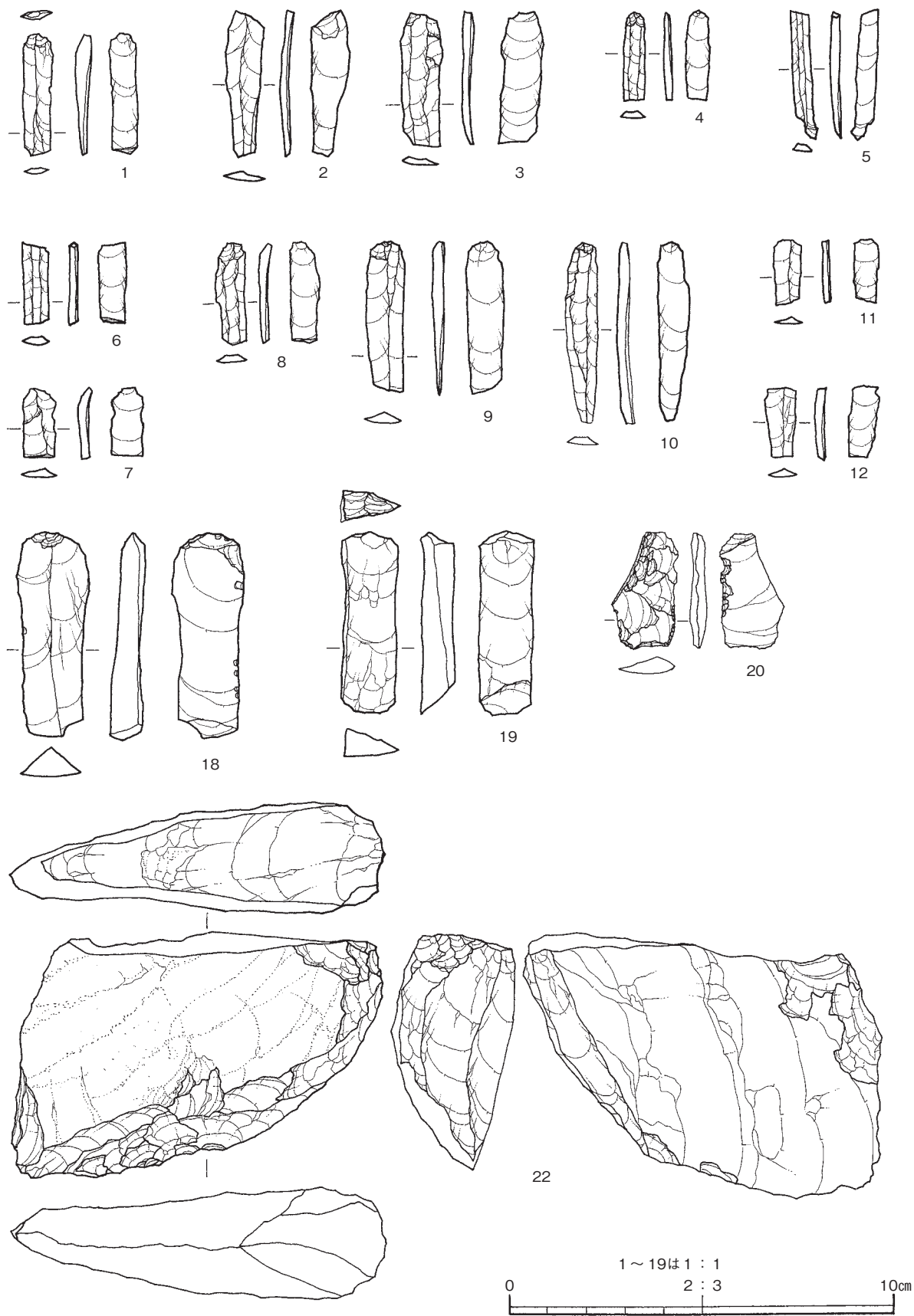


27

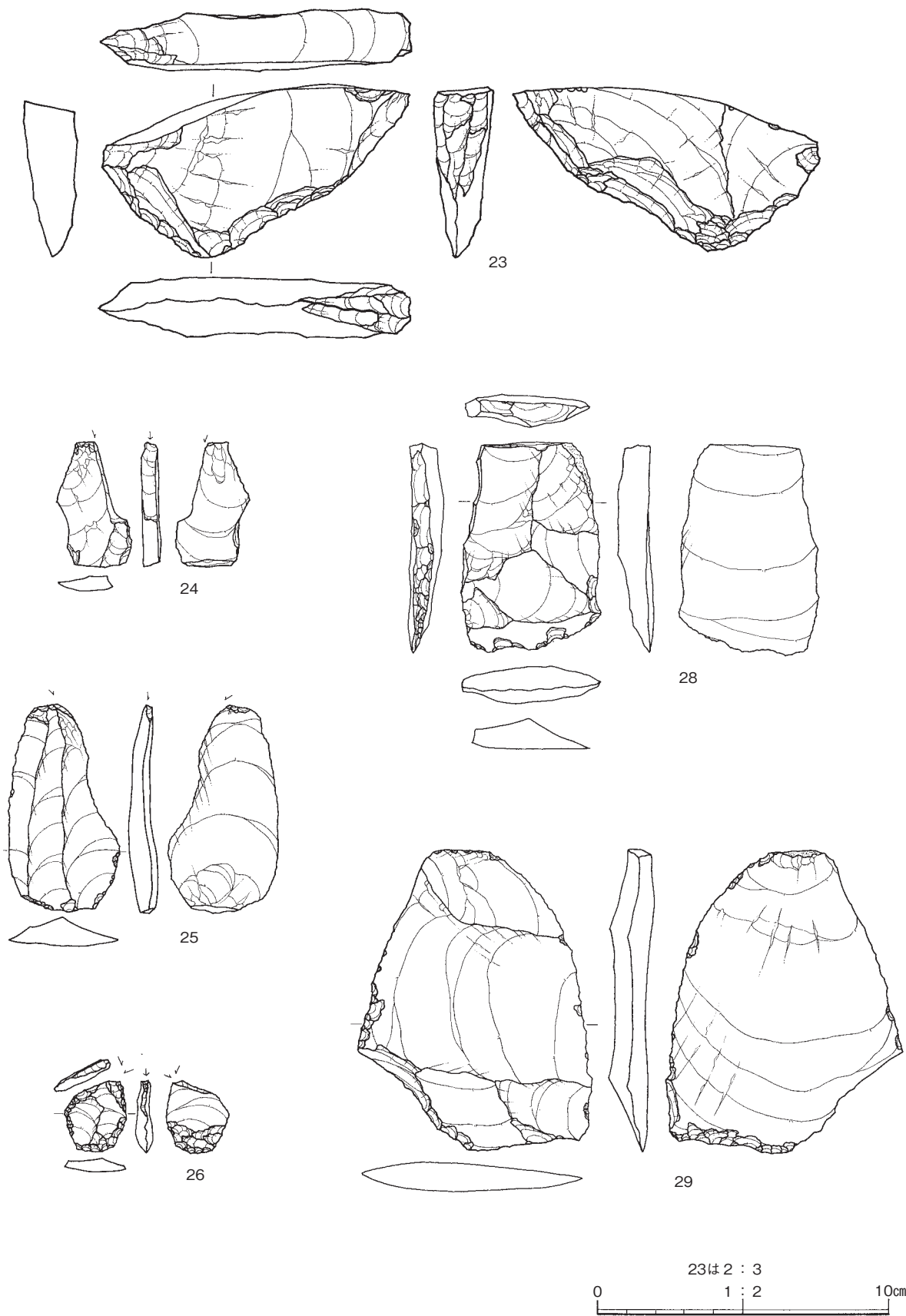
相ノ山遺跡採集石器(2)



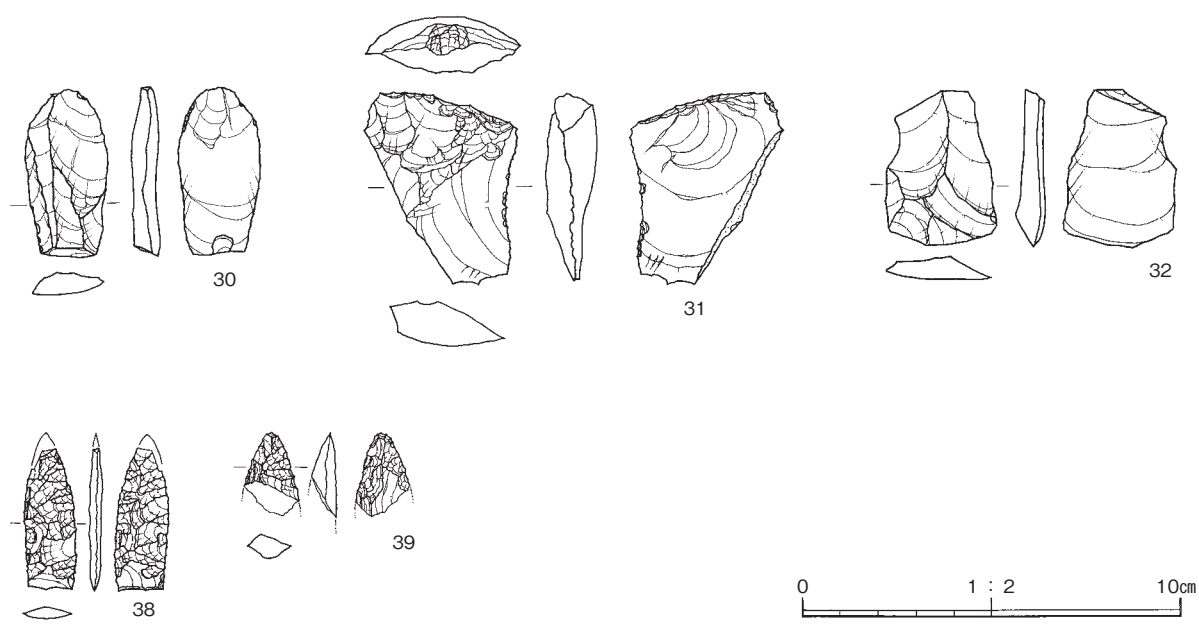
相ノ山遺跡採集石器(3)・土器



第9図 相ノ山遺跡採集石器(1)



第10図 相ノ山遺跡採集石器(2)



第11図 相ノ山遺跡採集石器(3)

写 真 图 版



岩洞湖遠景(西より)



岩洞湖近景(西より)

第2図版



岩洞湖E遺跡第2調査区全景1(東より)



岩洞湖遺跡第2次調査区全景2(西より)



岩洞湖E遺跡第2次調査 RG001側溝跡(検出時)



岩洞湖E遺跡第2次調査 RG001側溝跡(完掘時)

第4図版



岩洞湖G遺跡第2次調査区全景1(西より)



岩洞湖G遺跡第2次調査区全景2(東より)



岩洞湖G遺跡第2次調査区全景3(東より)



岩洞湖G遺跡第2次調査 RD001土坑

報告書抄録

ふりがな	がんどうこいせきぐん							
書名	岩洞湖遺跡群							
副書名	市道一の渡岩洞湖線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ番号								
編著者名	佐々木亮二, 鈴木俊輝, 神原雄一郎							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行機関	盛岡市教育委員会							
発行年月日	2018年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
がんどうこいせき 岩洞湖E遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 やぶかわあざかめはし 藪川字亀橋	03201	KF60-0285	39° 49' 43"	141° 20' 03"	2017.06.27, 2017.07.18 ~ 20, 2017.08.02	108.2	市道改良
がんどうこいせき 岩洞湖G遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 やぶかわあざかめはし 藪川字亀橋		KF61-1002	39° 49' 55"	141° 20' 54"	2016.11.07 ~ 2016.11.30	84	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
岩洞湖E遺跡 第2次	散布地	近世	側溝跡 1条					
要約	岩洞湖E遺跡は、縄文時代の遺跡として周知されているが、遺跡内を旧野田街道が通過しており、岩手県の史跡である大橋一里塚が所在している。本調査では、近世の野田街道に伴う側溝跡が確認され、整備改修を繰り返しながら昭和期まで使用されていたことがわかった。							
岩洞湖G遺跡 第2次	散布地	縄文時代	土坑 1基					
要約	岩洞湖G遺跡は、縄文時代の遺跡として周知され、縄文時代早期の土器や石器が採集されており、周辺に竪穴建物跡など人々の生活の痕跡を示す遺構の存在が予想されていた。本調査では、縄文時代の土坑1基が確認された。							

岩洞湖遺跡群

—市道一の渡岩洞湖線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

2018年3月26日 発行

編 集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600

発 行 盛岡市・盛岡市教育委員会

印 刷 杜陵高速印刷株式会社
〒020-0811 盛岡市川目町23番2号
TEL 019-651-2110
